



俳諧御筆
三

伊地知文庫
文庫20
334
3



20
21
22

瀬沼の筆

伊地知氏書冊

无礙菴

種



知くしんしん
知くしんしん

も皆二百巻

らんらん木乃
一文字しん

と海りよの二百巻
海りよ

ら寸

知んよ
おんらんらん

ぬもこらら
と乃又字へ付らるる

ちまへし一乳きし巻とつる人

乱舞 ちまへし巻とつる人

乃一室のあまきし乳舞の難と

いふ白は物まじりし酒をたぐ

もくろし一かきし物まじり

物まじりまじり物まじり

一白物まじり乳舞のちまへ

一物まじり乳舞のちまへ

まあまじり物まじり

也

密

松虫終身名一法懐胎

いふ物乃虫乃虫なり養

機織 じ二又中

乳も物乃虫乃虫なり養

珍虫三の虫れ肉よまじり

毛彩式名一産よ一勾物乃

物よまじり物乃虫乃虫なり

と五年連続よ物乃虫乃虫

亦松虫終身二乃虫小養機

織乃肉よ又せし物乃虫乃

養機織も二法つる人

鳥つよはるる魚ふじきやひしよ
敷おむく回車とちんあひまよ
くかへら次むくせや中ねさば
か殿やういぬやうた搭よ
連筋と引く新式のらつく
まくと一松虫一様ち一山とこま
らうしき用よ茶をけつりまを
きよほじじ一或ハ機辨うんし
のじ一機織もつくしそを
あむじとつひんくもも毛
またて連鉄新式乃鳥のきく
のしつ一備備よいび派り
いしあうらうさひまうし備備の
しきき板の虫乃くぬぐい毛掛
よわらうへしきもも三虫たは
材乃しりまればい敷の虫
あらしけし地乃のら連よしよ
とももへ連のしつと面と種
う様とわいあのみま流りてぬ
玉中ち交虫このしりともくし
虫腹の虫あとの虫乃きみ各こ
面とぬぐい虫のきまはつ虫
しりよハ鳥よむちを

虫鳥歎乃鳥

よよは離よ
い二句まうし

鳥

只一離鳥よハ二句まうし
ほ鳥あうしと整よいつひく
もねるさくくと二句の内らり
鳥よのあしと連よねるれし
瀬よのむをさくうし鳥うし

ゆきしぬをハ折道とゆふ

村

村乃字一三句急ぬと

急ぬと折道とゆふも二句の

内之連一六句小面をゆふ

一六七句急ぬと一六句乃

村急ぬと一六句乃急ぬと

内之折道乃急ぬと一六句乃

急ぬと一六句乃急ぬと

急ぬと一六句乃急ぬと

急ぬと一六句乃急ぬと

急ぬと一六句乃急ぬと

急ぬと一六句乃急ぬと

急ぬと一六句乃急ぬと

急ぬと一六句乃急ぬと

急ぬと一六句乃急ぬと

急ぬと一六句乃急ぬと

急ぬと一六句乃急ぬと

昔のよわしは事の遠の事乃
年にとまふ事なりしは物に
先くせしとあるよわし人
昔遠の人物に事遠昔遠志
くやうしとあることの内
遠乃遠はうしなり
そりう遠なるもの名は遠
二事よわしなりし事なり
一事なりしことなりこの外
今事ありし事なりし事
三事同じし事なりし事
今しりし事なりし事
ひあしなりし事

物 只き知梅一冬木一冬梅一
紅葉一冬梅紅葉ありし事

新式一冬木乃乃一冬木
あしりし事なりし事
理なりし事なりし事
新式の物なりし事
一物と物なりし事
も一物なりし事
るんりし事なりし事
てんや離れし事なりし事
物なりし事なりし事
はが物なりし事なりし事
塩梅なりし事なりし事
るなりし事なりし事
なりし事なりし事
なりし事なりし事
なりし事なりし事
なりし事なりし事
なりし事なりし事

村 居下より百もいさなり乃
一ひらきくくく人家の枕
只重乃一村ひく馬村系
敷がも居下よりあし次
埋木 ひらぎ 極物より折越と峰个
但死や紅葉と結く
三句よりあし

馬 一駒一駒をくくくわり
くくく敷るあし新式の一

産二句の極乃下よりわりくく
駒一同様之離より名馬産
あし敷より讀く馬駒二
あし今一まへへへ一前産新
式を及るよ馬の駒の
一産よりわりくく後より

馬一駒一駒のあしは乃馬
ひらひら駒を各あしは
くく駒二乃あし乃馬
ひらひら駒くく一まへあし
くくあしくくあし離より馬
二くくあしあし離より馬
産馬くく馬馬馬馬
床馬頭駒くく馬馬馬
あしあしあしあし今一句
て一産より四句乃相く
馬一箇くくく原牛駒馬
馬鞭より馬馬馬馬
乃馬蹄人のあし乃馬如
馬寺又讀よりあし
肉肉目くくくの平馬馬
馬をくくく馬馬馬馬
よせ句より一駒くく三句

夫へくもふのりもま敷乃
 馬よりうき物よあつて
 各家乃物なれとて連り
 ひ海り物ふ乃馬ふとゆり
 ぬくまふへく又三味線乃
 物伊物山物うき物乃名人
 名乃物あきつて約ふ面と
 ころひ馬くく三句まふし
 くのあつて去物とてあん
 ぬめふ物まふとぬくまふ
 只とてあきつておくらよ
 何乃乃心く次又じまわ物
 環路とじまわの長張長と
 馬物よ七句るぬくまふ
 する物う七句も色ハ見物と
 せん物ま敷よ二句か物
 馳ふとま敷くも不敷物
 もくまふく物

海くこ 乃字よ二句る
 駒よ物と物といふ
 後物ま見録乃一字あれと
 じまわぬく物と面
 と物の説く物ぬ物ハ物
 の七句ま物

海く 生敷よ二句馬物
 とまらつて物と
 物とまらつて物と

繪馬 又繪よまらつて物
 と物まらつて物乃物ま物
 中よあれと物まらつて物

生熟あつて馬肉は行と
ゆふ

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

きつてあつたり

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

馬肉は行と 生熟あつて馬肉は行と

薄 雜るる薄乃る有極也
君所かゝる薄生八重

薄るるのひくく薄よ二句
まへへ薄生君よ二句

無考の連懐の句 引合く三
句三句之句

と新武乃又云しは義理念息
はあくさゆへよ色くわ奥よ

あろ句数乃る所をこれと
懐非祇尺又連懐 懐旧云常
在は用云く

望く望くはうくひるさあ
ひ夜冬亦二句あくも控

之句とまははあくく
あくはくはあくく

無考の連懐の句 引合く三
句三句之句

懐も懐旧も又冬の
一句あくも控之句ともつ

きくくくくくくくくく
あくくくくくくくくく

懐由一句引合く二句せよ
ひあ義ハ不可月あくく

連懐之句無考の義端あはる
ひは連も又句極は左方あはる

同あくくはあくくはあくく
あくくはあくくはあくく

あくくはあくくはあくく
あくくはあくくはあくく

あくくはあくくはあくく
あくくはあくくはあくく

あくくはあくくはあくく
あくくはあくくはあくく

迷憊よなきとて...
懐旧とみゆき...
魚腹に連よみゆ乃物...
のなるまへ

家の戸

家こもよ...
山本と家...
と一あ...
し吾家の...

しら乃ま

...

家乃ま

名...
乃...
乃...
乃...
乃...

おいての中よも〜この
とつうと中下初中格と
三格よもつち物しし一格的
とよ又上中下初中格のあ
ゆらりさこあ〜揃おま
ま〜めららら〜や回また
よく〜もつぬへまら
かり

し〜
あは難とたと結と
らま〜衆未は乃
お乃らあらち極物よあり
とし〜二乃およ又あち
なり

し〜
おふるわり〜物
なり連よ二句乃
おん〜勢よつひ〜今ま
お〜

胸乃雲きり
鳥と地と長物
お〜と〜と〜
よ〜と〜と〜

し録乃あり
鳥と長年物よ
お〜と〜と〜

胸よ
おらん句録よ〜り〜三
句録るわねむ録の屋
〜ら〜は〜む〜の〜ら〜さ
胸乃さわ〜あり胸乃おひ
胃の月海のほよま〜よつた
胸乃お〜ら〜る〜ち〜ま〜二句
お〜た〜れ〜れ〜し〜ひ〜さ〜ら〜ん
し〜ひ〜ま〜さ〜む〜録乃〜ら〜ら〜さ〜ら
と〜ら〜ち〜よ〜ら〜ん〜皆〜こ〜ら〜ら〜

しす

しほし ねふくゑるる花
のちをくくくく

しほし ねふくゑるる花
のちをくくくく

しほし ねふくゑるる花
のちをくくくく

しほし ねふくゑるる花
のちをくくくく

おれと嬉らわ

しほし ねふくゑるる花
のちをくくくく

しほし ねふくゑるる花
のちをくくくく

しほし ねふくゑるる花
のちをくくくく

しほし ねふくゑるる花
のちをくくくく

うきお けいまりけいこ
きんねし 熱の二句
とわり新式よんくぬまし
目かきし

うきお けいまりけいこ
きんねし 熱の二句
とわり新式よんくぬまし
目かきし

うきお けいまりけいこ
きんねし 熱の二句
とわり新式よんくぬまし
目かきし

うきお けいまりけいこ
きんねし 熱の二句
とわり新式よんくぬまし
目かきし

うきお けいまりけいこ
きんねし 熱の二句
とわり新式よんくぬまし
目かきし

うきお けいまりけいこ
きんねし 熱の二句
とわり新式よんくぬまし
目かきし

うきお けいまりけいこ
きんねし 熱の二句
とわり新式よんくぬまし
目かきし

うきお けいまりけいこ
きんねし 熱の二句
とわり新式よんくぬまし
目かきし

うきお けいまりけいこ
きんねし 熱の二句
とわり新式よんくぬまし
目かきし

うきお けいまりけいこ
きんねし 熱の二句
とわり新式よんくぬまし
目かきし

鹿を捕りし其の鹿乃たハ
りよ不及義之石燈より
洞たる通道とあり其の文
字と入る其の葉とつら
新葉を捕しつらぬら
きし其の文乃て其の
可只洞なり云乃其葉
子し其の葉とつらぬ
らるる其の葉を捕ら

定流乃川流
世別乃川流世乃中流
歌よあらしはらり丸形
とららふ若川流ら山歌
を流はらり定流乃川流
乃山歌
その小虫よ青拍乃丸川流
同と今あるあり
る川流ら山歌ふら
らるるららり

青拍 拍と葉のそと又

うらむ拍とららり其の葉を
野を原庭らるの文を
入るわ拍拍は二句と
羊乃字ありて拍拍と
白らわ連は青拍と
羊乃句よりありて
らむせと拍と離し
らるるそれら青拍と
きつ拍拍とらるる
あ拍拍とらるる

うらうらあなほ乃白あらし
かき野に人しつを歩む
くもあらしすもあまの
うらうらあなほ乃白あらし
はるかなるあまのあらし
しんがりのあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし

あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし

あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし
あまのあらしあまのあらし

よのまゝにわらわし〜ぬ〜も
そのまゝも人備ふり地伴務
物〜つよ〜ゆめ〜り〜ぬ〜ぬ〜
どう〜と〜ぬ〜ぬ〜と〜漢〜方〜の〜あ
し〜わ〜し〜恨〜ら〜ぬ〜物〜よ〜あ〜ぬ
あ〜〜と〜く〜け〜く〜う〜こ〜う〜物〜し

動物〜の〜〜と〜ぬ〜
新式〜も〜と〜加〜〜

志〜と〜物〜の〜部〜よ〜ぬ〜ぬ〜只〜僅
人〜も〜種〜と〜も〜物〜を〜し〜ぬ〜ぬ〜も
熊〜乃〜ま〜よ〜と〜何〜ゆ〜よ〜生〜敷〜よ
二〜句〜去〜る〜わ

浮木 熊物〜の〜〜水〜も〜と
熊〜よ〜い〜わ〜ら〜と〜久〜敷〜よ

漢〜〜浮木〜と〜あ〜ぬ〜人〜
生〜敷〜よ〜と〜何〜と〜浮木〜い〜人
物〜よ〜あ〜ぬ

う〜と〜新〜乃〜座 水〜も〜ぬ

魚〜も〜ゆ〜乃〜と〜よ〜〜ぬ〜物〜
お〜よ〜新〜乃〜よ〜あ〜ぬ〜物〜も〜と
ゆ〜ぬ〜ら〜と〜新〜乃〜よ〜あ〜ぬ〜物〜を
無〜と〜物〜よ〜ゆ〜ぬ〜と〜ぬ〜ぬ〜い
と〜ぬ〜新〜式〜固〜め〜と〜新〜乃〜座
あ〜〜と〜新〜乃〜座〜よ〜〜と〜新
乃〜も〜と〜〜と〜わ〜ぬ〜〜と〜あ〜ぬ
余〜の〜も〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜

新乃座 新〜乃〜座
新式〜も〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜

書ふよわいふは物乃るよ
まゝの床にわらわのあざり
は道理を分るは物よ
余乃もといふわらわのあざり
さといふは物乃るよ
あざりの中は物乃るよ
いづれは物乃るよ
もあざりは物乃るよ
あざりとあざりは物乃るよ
あざりのあざりは物乃るよ
あざりは物乃るよ
あざりは物乃るよ
あざりは物乃るよ
あざりは物乃るよ
あざりは物乃るよ
あざりは物乃るよ

卯の花

卯の花は卯の花

卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花

兔

卯の花は卯の花

卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花
卯の花は卯の花

二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人
大ノ意 小ノ意 大ノ意 小ノ意
しれも 静夜 一ノ人 二ノ人
二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人

うろたへ 生穀 一ノ人 二ノ人

去る 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人
或ト 異鱗 廻鱗 一ノ人 二ノ人
一ノ人 一ノ人 一ノ人 一ノ人

極 廻 廻 廻 廻 廻 廻 廻

極 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人

一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人
一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人
一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人

一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人

一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人
一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人
一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人
一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人
一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人
一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人
一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人 一ノ人 二ノ人

力ようはつらぬらふや
袖抱くも肌よはぬらふ
お成るうし物い肌をぬた
いも次をぬたぬらふ
うはつらぬらふぬらふ
おしり物抱くもぬらふ
ぬらふぬらふぬらふ

うすこのま ねよ一は
まれのぬらふ

い面をうらぬらふ

うす物 ぬらふぬらふ物ぬらふ
よへまぬらふぬらふ

ぬらふぬらふぬらふ

埋火 ぬらふぬらふぬらふ
ぬらふぬらふぬらふ

ぬらふぬらふぬらふ

上乃らま ぬらふぬらふぬらふ
ぬらふぬらふぬらふ

ぬらふぬらふぬらふ

ぬらふぬらふ

ぬらふぬらふぬらふ
ぬらふぬらふぬらふ

ぬらふぬらふぬらふ

ぬらふ

ぬらふぬらふぬらふ

ぬらふぬらふぬらふ
ぬらふぬらふぬらふ

ぬらふぬらふぬらふ

ぬらふぬらふぬらふ
ぬらふぬらふぬらふ

みづらきと原をわたりて
ちかき後とらひたきまわら
すお後と橋をわたりて
里のあひらきまわら
橋のちかきとらひて
約さくわらひてあま
結くゆめあきつた
るまらる

お後と打すじの類

ろふとよとらひのま
二百ましあはるは
ても二とあはるは
あはるすまとらひの
あはる連よあはる
はあはる二とあはる
まそのまはるは二
あはる

卯杖 うづえ 八尺三寸 正月卯日

もトとらひしお統
つとらる

橋川 はしがわ 五し橋つら

人よはらとらひぬ
あはるあはるは
あはるあはるの
わらす

うら うら 五し橋つら

あはるあはるは
あはるあはるの
わらす

く次よりんの花を發
は遠句わらうし三句はし
うぢ
空乃花雲と 林乃り
も花し

為

猪わ只一離よの二ひあよらふ
乃花若野人かん若乃花
ひらこの実の南の乾ひら実
乃みるふ乃えん
と一あへ一連なる乃一在二
句若花と文字より同
たれは是敷くも石鐘各
別乃花よせもひるるれ
文よら花一ひる連なる
ぬと花と

くはふらうし一在一句の物
と次離花乃時らわらう
とらひくもさやひら花と
あそ花と文よ割とへさ
よあは次連款よはらうぬ
詞を字とねか
あつふ道されしう合の
場い屋へ連款と人さ
くはかかひははとと花人
さ花宗道と連款よ一在一
句乃花を二句乃花よせよ
とゆら守ら曲事あはと
人もはらうらと花と
あはもあはら

せしぬらうしむたうらな
 のいふまじりあはれぬあつと
 そとまじりあはれぬあつと
 右よ面ちまじりぬるよ七
 白まき赤に同くま家の船名
 けうひよあめおのふよ井やと
 とちく塩塩はあまよとあせ
 里やんきよま定家の船名
 けうひよとP坊を定家の船
 よいあし次姑め河周守親行
 へ捨遠愚系（うま）の信去をよあ
 乃とわりし時大能よま集あ
 けうを所まじりよとぬま集
 てそれなま家（うま）の船名ま
 とちくまあひまあまの石地
 入道（うま）よま集あま集あ
 右よ面ちまじりぬるよ七
 味しとく大蔵らま集あ
 子細らま集あま集あ
 よの坊らま集あま集あ
 思ふあまま集あま集あ
 ちあま集あ乃内よ集あ
 帝の信やあま集あ
 用水のあま集あ
 一海を大井川よ集あ
 とゆしと集あ井やと
 その大井川をまじりぬるよ七
 右積（うま）らま集あま集あ
 右集あま集あ大井川よ集あ
 おせま集あま集あ
 右集あま集あま集あ
 右集あま集あま集あ

カ

三 仏造乃亦^{カキヤ}は信令の信
しき人し 仏造乃はさく
る信の神不^{カキヤ}を説くさく
新式^{カキヤ}神よは信神と一ま
信神は下信眼信橋あ
勢よ禱くもさく乃内
信令の信は信度とさく

野乃

二 襟よはさくしこ
乃内一まさくあま

しりひ信さくは信神

野乃乃又付

わくはさく
し信は信地よ

二 乃しまたさくしわの又さ

乃内あまは信山よは信令

野もとの人しわ信よあ

し信は信地よ打紙と信さ

又信野もとの又さくし林

し成し信神と信は信さ

毛も信地よ打紙信よま

のし信は信地よ信は信

信の又さくし信は信

連のさくし信は信

信は信地よ信は信

者

野乃又

信地よ打紙と信

野よ亦

二乃まは信は信
西乃亦

わさちり原しんこり原竹
原る原川原等の主付しり
又字よよあまの野原よわら
さけお本編わしぬの原飛
火乃原片雲の原林葉乃原
乞ふ乃原と野原よ加取
鳩ふ者の鳩屋しそく後よ
まきく原よ野と二句まき
空ふ原も新式よんんさ
秋ふれ原よあさし野
あししそ他者ゆめよま
るし必原よ野と二句ま
ろりい空さ

野原と云ふ 瀬よ二原よ
二句まあり

わさちり原しんこり原竹
原る原川原等の主付しり
又字よよあまの野原よわら
さけお本編わしぬの原飛
火乃原片雲の原林葉乃原
乞ふ乃原と野原よ加取
鳩ふ者の鳩屋しそく後よ
まきく原よ野と二句まき
空ふ原も新式よんんさ
秋ふれ原よあさし野
あししそ他者ゆめよま
るし必原よ野と二句ま
ろりい空さ

野原と云ふ 瀬よ二原よ
二句まあり

わさちり原しんこり原竹
原る原川原等の主付しり
又字よよあまの野原よわら
さけお本編わしぬの原飛
火乃原片雲の原林葉乃原
乞ふ乃原と野原よ加取
鳩ふ者の鳩屋しそく後よ
まきく原よ野と二句まき
空ふ原も新式よんんさ
秋ふれ原よあさし野
あししそ他者ゆめよま
るし必原よ野と二句ま
ろりい空さ

野原と云ふ 瀬よ二原よ
二句まあり

わさちり原しんこり原竹
原る原川原等の主付しり
又字よよあまの野原よわら
さけお本編わしぬの原飛
火乃原片雲の原林葉乃原
乞ふ乃原と野原よ加取
鳩ふ者の鳩屋しそく後よ
まきく原よ野と二句まき
空ふ原も新式よんんさ
秋ふれ原よあさし野
あししそ他者ゆめよま
るし必原よ野と二句ま
ろりい空さ

つらふにほかにこのまゝにふて
し面と婦人しせしむたて
りふ同字なるれはる授國よ
ハ石橋狭衣被造りハ二句
婦人哉し

野山成屋く まし極務よ
新越と婦人し

野山乃志まら まし極務よ
二句し

野山 田と付申極合りち
わし福しと合合ぬ

とく結也と婦人あひし
そふと約ゆまらし野山
田といふれ也し田よ成へん地を
ハ野山よあつたれし田よ野ハ

野山乃志まら

申とわんまはよ油よわら
新しあつたれよ野山わら
野山よ新田とひしとくも
わらんかふまはよ野山わら
りふまわらした野山よ田を
此はらぬまのよあつたれし
あつたれしわらし付くまの
道理をまはるす付名をわら
あつたれしわらし付くまの
ひしとくははれし付ぬまの
あつたれしあつたれしわらし
まはるまはるまはる

野山 梅し七八月よ吹た風
らわ果春風しもまら

あし野山乃志まらのまよハ二句

まし阿蘇とてい阿蘇らうし
あ

野乃宮 湯殿はありか人
成うともありか

林紙し名おし伝まあしく
もかりらよ一産よ一句し

野乃宮の別名は海抜も
極し野乃宮野乃山野野

野乃宮野乃野乃野野野
火野野野野野野野野野

野乃宮野乃野乃野野野
野乃宮野乃野乃野野野

野乃宮野乃野乃野野野
野乃宮野乃野乃野野野

野乃宮野乃野乃野野野
野乃宮野乃野乃野野野

野乃宮野乃野乃野野野
野乃宮野乃野乃野野野

野乃宮野乃野乃野野野
野乃宮野乃野乃野野野

野乃宮野乃野乃野野野
野乃宮野乃野乃野野野

野乃宮野乃野乃野野野
野乃宮野乃野乃野野野

野乃宮野乃野乃野野野
野乃宮野乃野乃野野野

野乃宮野乃野乃野野野
野乃宮野乃野乃野野野

申し花形を居る水にわら
と形三句の如し

軒乃玉のきああ 水色波袖みづいろなみそで乃の

あささのまの志のさめり
物さあまあささささ

ていひいささささ
よゆわんさささ

毎のまももまもも
同申し梅りさ橋皮さ

の橋ありさ梅りさ福丸
常のおけりさ奥さ

人踏抱りさあさ
ねささささ

とあさささ
さささ

さささ
水色ささ

とささ
ひささ

野のああささいい 水色波袖乃

今一形ささ
ささ

いさ
白梅り

ささ

張暑

秋

秋菊

秋九月の菊
乃菊と云ふは

十一月二十凌八

荷お使

墓へてくると

と云ふは
乃菊と云ふは
乃菊と云ふは

秋

光

只一色の菊
よはひかよらうと

不毛門を子
迷懐乃らう
あさ人も懐

光

あさ人も懐
あさ人も懐

光

あさ人も懐
あさ人も懐

光

あさ人も懐
あさ人も懐

光

あさ人も懐
あさ人も懐

入句らりて離よいさ句らり
凡たそんくくくさきにま
くし歌乃言とわをこ極と
つひく流の波言流のけ
と歌よいぬ句ととそり物
よおせらるる不書らり流の
けつとまけらるる句神よら
て志の事けり寸恋まの
句らりて文よまきこらぬも
あふたれと波言いさの良乃
あし歌乃波の白こころも
乞も離よいせ句まらり位
乞あふ人あふ乃の上乃志
乃らまよ極言こころまを
の志よい依り神けりく意

不志のふ志の歌めるとの
を乃字よい白波歌乃言
とせ句とを極へく寸二句
婦人をけり又波よ流くも
ま一人志波さくおの後り
心可と回くせ句とるり
志極をよよの連懐い
さ波志のまらりいお遊とい
まぬ言人あまらるる
けりまらりけり言ら
寸らり句神よい人こ
むよ 終二句まこ形成り
白神よいりけり婦人
く寸とあふ人あまらるる
あぬ志よ志波乃歌の
なり離よい人あまらるる

乃とよふことむ人金銀
おもふ人金銀乃世に成るり
不世門む子孫ふとく連懐
りるる世なるこ乃亦よ
まへしと世なる世なる
〜

親の老

二句まじい小書よ
付の老よ極と
新武りあつた人金銀不世
と世親しむに世世を極
乃亦よあせりたり世と極
物よ付くはら世に〜
物もあよ〜
つと世なる世なる二句まじ
云と世世と極と〜

よも二句まじい不世なる
極も〜
事あり〜
〜
ぬむよ世の世なる〜
よ〜
親連懐よあつた

親よ

不世は付二句まじ
世なる世なるの親

ふこ世の子あつた〜
あ〜
〜
親と世なる世なる連懐と
〜
お〜

中よもへんもうにせしへんこ
下乃句よふと海りもせす
重我乃連歎み潤と神よ
落ち枝りて子句よせしれ
しとこらと離れりいれと久
事三句よへへ同と連歎し
其子句よ二句乃申と海り
下の句と百物なる離れよ
はる波よや若と下の句れ
ふと海りて子句よ二句と定
ふりて波りいれへ下下の句
よめとらむまはは和歎の下
句よ成と二句をともぬよ
しり若らわよとのつらふ
せぬ申成と二句を理ちた
たはる波りいれへ下下の句
一乃せしり神重我乃子句り
柄らり若乃句をともぬよ
とらふ人あつて百歎に下
と人あひのいれとと潤と離よ
と二句あつて若らわ

面歎 只一を月花あつてふ一
何乃おのりて成とも今二三

句あつて若ら一而歎し歎ふ
その法乃字面の字は二句ま
るり成乃字別よと若ら

若葉 一松乃若葉一御らり
さしと一ととと離よ

と若葉と若葉と若葉と若葉と
と人あつて若葉の葉らり
同しとらりてと若葉の

葉とて人と枝よ付くらぬ
白紙とて難くあるべし但
木乃葉天物木乃葉後木
乃葉衣皆ありと名とて字入
まし物と柳桐柞楸らり
と稱し皆物秋と一葉行
らりぬよも亦乃木の名を
さし稱は只一葉らりといひ
多難より成し又松竹の落
葉と難くと記す木の落
葉のなご又落葉のまき盤
木のらりる松乃葉乃其の連よ
いれと難とわれし難より
而とて難をあらう何乃木
乃葉のらりるも宜乃門され
るは難く入るは難くあり
落葉乃葉のなごを落
乃字よぬも不不難也
あつても竹あつても落葉と
わつても宜乃門あらう

落葉乃宮ら

女之中心柳
名し宜乃女

され人備よも不難をよ
あつて極極よあつてつと
とも宜乃門あらう

秋

新式よ一産三句乃物よ
あつての定めいふもあつ

あつては乃宮よ難言の法
名と合点いふやと記わ
よりへて秋一他乃葉よ一
伴母の漢秋一ひ布にてさ
れと秋よ録くと一五し

萩乃字の萩はこもれなるゆり
るり萩乃焼萩乃下崩
萩の字の萩はこもれなるゆり
るり萩乃焼萩乃下崩
萩の字の萩はこもれなるゆり
るり萩乃焼萩乃下崩
萩の字の萩はこもれなるゆり
るり萩乃焼萩乃下崩
萩の字の萩はこもれなるゆり
るり萩乃焼萩乃下崩
萩の字の萩はこもれなるゆり
るり萩乃焼萩乃下崩
萩の字の萩はこもれなるゆり
るり萩乃焼萩乃下崩

萩乃字の萩はこもれなるゆり
るり萩乃焼萩乃下崩

萩乃字の萩はこもれなるゆり
るり萩乃焼萩乃下崩
萩乃字の萩はこもれなるゆり
るり萩乃焼萩乃下崩

成を留く、由可也

おとひのち

昔年の物より
種物し一巻一巻に

誰よの意より一寸一寸今一

句あり

おひ乃煙

意乃煙より
物よ二巻三巻の

意の誰よみ句あり

おとひのち

人端よあり

おとひのち

お徳よあり
意乃煙より

二巻三巻一巻よ二巻の物あり

誰よの意より一寸一寸

おとひのち

意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おとひのち

おとひのち
意乃煙より

おとひのち

意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おとひのち
意乃煙より

おうしまたはしほをとりけ
 とよはしほをあらとりの詞と
 ぬく居るもよもあらはた
 まおまのしおがりしきす清
 登のちの廻ちせりきるし
 登乃まのらとらわめれ
 二の汁あまししゆしあへ
 くれとほの字そへしゆ
 おきししゆしゆは登あは
 とくあしし登配車登あ
 人あめとゆり登ち登あ
 とあらししゆしあへし
 と居るの登乃外よ高貴
 乃紙乃登治登又金籠の
 登金乃はかの登又人
 登乃ましゆしゆは登あ
 登乃房登は乃湯登のち
 おまの登乃ましゆしゆ
 登ししゆしゆは登あ
 とらわらち登山あし登
 しし登乃ましゆしゆは
 し登のちのましゆしゆは
 付の可様ち登ししゆしゆ
 登登登も登登まあま
 登あしあしゆ

第 連よははちしゆしゆと二の
 けあわししゆしゆ

しつちお梅にのさるるに乃也
もあつてはなう一徳わん
もつてはなうしつちと梅

沖 おき 二今一ちふふふふふ

尾 のり 連よ名ふとそふ二
わふし梅の三ふと

へふふふふふふふふふふ
物もれし連の二ふあふ
へ一各ふ乃名とも二ふふ
四ふち

尾 のり 乃名ふ二ふ梅ふと
ふふふふふふふふふふ
きふし二ふふふふふ

大井川 おおいがわ 乃名ふ二ふ梅ふと
條よ大井よわをきふ梅ふと

おせいふふふふふふふふ
乃名ふ二ふ梅ふと

奥山 おくやま 一庭よ一山乃あふふ
又ふふふ梅よ奥山ふ

庭よふふふふふふふふ
始乃又文字終乃又文字同
し梅よふふふふふふふ

奥 おく 乃名ふ二ふ梅ふと
ひふふふふふ

あふふふふふふふふふ
浪もはれし大綱とつち梅
之梅よ奥とつちふふ奥義
ふと終ふふふ今一書教

まゝしん乃奥も奥田乃内こ
無言乃親きあふこしと津乃
奥も田乃也こ回一もあし
あらのあつととわし田のあ
裏一もこし一あらあ
行とあつととわしあら
乃あつあつあ

おこらよ
尾乃字花乃字
たよあ白鳩い敷

こたあ二乃乃物なれた
のこくきこひあこ他尾よ
不痛しり親あわり可也
ゆこあその親るわひ尾
不痛しりこあ空の恨
はらひよおあの下に

移の文字を付く
てさ中成るもいあ
乃秘事られた家よ
人丸のいあよ小男麻の
野乃為らるる花とあ
あ乃人ああつと不痛
て着と尾花と二物とた
まのこあこよ文あな
玉あわ二物よあつ
事とああ乃あつと
物るあよあつと種乃
やうああつとあつと
いほつとさ花をいほ
妹つとあつとあつと
一と乃乃種の花乃尾の
あつとあつとあつと

多のりつとて毛正殿に書き
小花よりとて先書とてぬれも
尾花と終よ能く書きしも
く終つらとて書し尾乃字
よ種る書とて終と終る
尾乃字よも花乃字よも
三句よ書るなり

朽て回 拙稿よ二句可牙種
なす終る成り

拙稿よ又句種へ一と書
二言と一終るなりと種と
三事と朽て回と六回地よ
終る種と心外なり種と
きしと心外と書し書し
つる又よあ乃種よあ

と書し種と回と種と

回と付字と朽てとと三言
く朽と種とくくぬ種乃花
種と心外と種と朽て回

と書し 拙稿よ三句可牙種
起 終るなりと種と
るわぬる種とよわらる

乃種二句可牙種
にらるの種と終るなり
歎も人乃も回一種なり
反書終るよ終るなり
可

にわらるなり 可種なり
可種なり

と書し種と

大原村系 二月三日見

大神系 四月三日見
三編のゆきし

のこ

態 連よ二句う下離し
態乃皮態のゆ態よ

との類よ今一ささし湯態

態音態并態波と態羽

態態態態ささの態乃字

乃をささへへあうし態二

乃亦よあさへへ 同云

目らうし息をささし連秋

乃しし一産一旬よささあ

音連るるささししし

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

あさあさあさあさあさあ

車

一は乃車一水車一輦一

三方の門はあつて一水

車入りては乃車一もや形武よ

自笑の事とつてあつて八連

状はまればあつて物とては

かたわつてあつて四方せうとて

あつてあつて連よ三方の

物排し四方とれは離るる

水車と入くつて四方あつて

釣舟車水車の舟車舟とて

馬乃車馬人の羊麻平車

軽の大白半車 同方大車 大車

石車石乃乃車乃乃乃車乃乃

乃車乃乃乃車乃乃乃車乃乃

系海乃車山行乃乃乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

乃車乃車乃車乃車乃車

果実なり

只一月洗ふとよ
又一人一離よ

い際乃打果一今も同んま
よのくも今一まへ
瞿曇^{くわんとん}の愛果^{あいこ}花^{はな}の
後よ一むよいむく、おん

雲とやま

離るる二句を
うんと終ひり

後くも回一やま果し
二句を二句を二句

雲井^{のの}庭

大月あり
ふらふら

二句を始り

中の上人

致一人乃(ま)
二句を

雲井

句ふわくは裏
ようはくすの

草とよこ色の候や物なり
二句を三句を三句を三句を
二句を三句を三句を三句を
と一一回きるわや紙を
為へ一白紙よ一わくた

乃上も中井と回一候
乃上も中井と回一候
乃上も中井と回一候
乃上も中井と回一候

乃上も

一やまふらなまの
なま二句人候なり

植物よ二句を三句を三句を三句を

し極物は三句集にも三句人
備よいあしつ集より一集
とうふと連よの二あり排よ
ひひわよ牧量葡萄推とわ
とうふと一より一より
牧量の集列乃其名と半
飼量のもしとれとあま
まはくも文よしむ集列
よ面と増へしと集はると
よよの二句計増へ集ると
とふせうと集列乃唐名
集より集はるとわを色
今し列の字連よははる
し集より其唐名高集
編よと列物とよりとわよ
わをまへしと集列とせし
列乃門るわ

集乃唐

わしつ集の唐とつと集
乃しつ集の唐とつと集
集よの集の唐とつと集
今一より一より集の唐
集よの集とつと集
乃唐と集のわんたわら
よ今一より一より集の唐
とつと集のつとつと集
わらとつと集のつと集
二句の物と集へし集乃唐
集の唐と集の唐と集
連集よわしつ集の唐と集

三句云之形の若し此處居る
るわ極極一は二句るりりわ
ら極極たる若し乃りりり
乃りりりりりりりりりり
若し乃極も同若し乃極と
りりりりりりりりりりり
よりりりりりりりりりり
若し乃極一人極一は二句るりりりり
云いりりりりりりりりりり

若中延

極極一は二句るりりりり
若し乃極も同若し乃極と

遠若延遠若延一りりりりり

若乃原

野一は二句るりりりり

若乃花

極一連一は二句るりりりり

若乃花と云ふ小 萩乃女
横小車格授のまうもん
若乃花と云ふ小 萩乃女
乃分列一

若乃小 野乃小の種子
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

種をたじむる乃子種より種を
 と二句種とを種あり、種
 乃字とてけしむ、乃字のれ
 り、たり、ら、のら、さ、千、種
 とら、け、た、種、乃、字、乃、と、く
 よ、二、句、種、()

乃の村 叢乃字別よあり、
 村よ、乃、の、乃、二、句、も、村

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

乃字の二句をばり
 乃字の二句をばり

極物よ二句事乃まよよ二句
るり水事成之くさくさ
時々極物るり極乃まよよ
あし寸事よ二句まよよ

くさくさよまよ
二句まよ
みのみまよ

不極墨ま付句と極や
二句まよ丸くくくまよ
くさくさよ依ち極二極智
乃くさくさあ八巴のくさ
まよよの極よまよ極

くさくさよまよ
河 新くさ
まよくさ

雲くさくさ本乃くさ
あ乃乃くさくさ月くさ
くさくさよまよ

くさくさよまよ
くさくさよまよ

くさくさよまよ
くさくさよまよ
くさくさよまよ
くさくさよまよ
くさくさよまよ

油 山類るり一極一句の物
くさくさ

菊枯小花乃極
極く枯
極中も

甲極あま事よの極
まよるれ花乃まよ
極まよくまよ
極まよくまよ
乃まよあれ極

あつた 多田のわながわ

物多れに遊ばし二句を介し
句末よりとくく平座し

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

あつた 多田のわながわ

疎通りあるくぬ人毎交
ひ屋のまやとあやまりる
色ひ通乃東一らんまし

團乃若とお乃若 丁字通之
白排

よハ二句ま

團の若と名 丁字通之
白排

排も同あまのふし名あつ
けくつらやがく寸折紙
とい通るハ二句まの物
付申しとらうくそれハ二句
ましと折紙をさくすま
二句まのうけくハらう
くハ折紙を正折紙と通
ハ折紙を正折紙と通
付くもらうか寸字ま
ま乃名とし二句ま
名あとい折紙と通とま
連ハ二句まの二句ま
排ハ二句まの二句ま
まし二句まと記くま
名あら連ハ折紙と通
うまう折紙の文法ま
ましと折紙と通らめ
通らま折紙ハ二句ま
と名あも折紙二句ま

團乃海 名あし折紙と通
の二句ま

ハ二句まの二句まの海
乃海とまハ折紙と通

るなりし事ありきよもふかひあも
之句ありき事ありし辨りし
二句ありき

くればゆめありし 世物と世

句行しよる又句し

精 辨りし二ありし馬橋い
かよありし

書 二句ありきクメの字よ

乃書事年の書り又阿ふよ

二句ありし書より又も二句

あるわらゆ 書と世阿弥

し書ふよありし

くさきと 書ふりありし

ありし 書ふりありし

も 書ふりありし

生 書ふりありし

冥 書ふりありし

あり 書ふりありし

善 書ふりありし

も 書ふりありし

色 書ふりありし

も 書ふりありし

又四ノ一ノ三句魚なまこノ一葉
乃三ノ一ノ四句なまこノ一葉
し三句なまこノ一葉
すなまこノ一葉
其葉のなまこノ一葉
らなまこノ一葉
もなまこノ一葉
もなまこノ一葉
すなまこノ一葉
成なまこノ一葉
珠なまこノ一葉
珠なまこノ一葉
面なまこノ一葉
不なまこノ一葉

珠一珠珠と一珠一

珠なまこノ一葉
珠なまこノ一葉
珠なまこノ一葉
珠なまこノ一葉
珠なまこノ一葉
珠なまこノ一葉

灌佛

三月八日なまこノ一葉

くなまこノ一葉
物なまこノ一葉

扼乃死

乃なまこノ一葉
乃なまこノ一葉

口へぬこと漢と目むれあわ
まわぬりさ終たふ終らりの
そとへしとととあへてぬり
ととととととと

宿

只一睡一屋よりいふは
わりもの屋よりあはる
屋よりあるものありあり
は新式乃之書とと葉とと
り一屋二句乃物よあへる
うらむわらむうらむは
色は宿と屋とわと別あり
多二句はくあるととと
然し睡より宿二乃あり
志ゆくと終りよ漢と今と
多と宿よ屋より連よ
とととととととととと
宿よ七句と屋よりうら
むを睡たり

屋

二句と離りいひふよ屋宿
二十八宿乃数今一あり宿二
屋より二とありも二あり何
乃宿ありも屋よりあり
も若新をよめととと宿
里乃裏よ終りよ漢と宿の
まらとととととととと
ゆへとととととととと
乃雨とととと

屋乃字

野屋乃字
野屋乃字
野屋乃字

屋頂屋又とわくと枝のり
續くともとれと一産又のり
成し馬屋と別と一既乃字の
屋に七句を定宿屋とわ屋編
とて又句を定家り八三句
を

柳

只一善柳一秋冬乃乃に
一柳よハハ外よ柳柳或ハ
揚柳欽名柳下魚柳當
柳又或ハ柳橋柳々浦柳乃
あるとのるよ一ありハ
乃柳と名ふと皆難と極極よ
わら次地ハ内柳乃あら名
はよあり守兵柳の法よあり
ありとつとねよまき極極

柳乃ハハ外よ柳柳或ハ
揚柳欽名柳下魚柳當
柳又或ハ柳橋柳々浦柳乃
あるとのるよ一ありハ
乃柳と名ふと皆難と極極よ
わら次地ハ内柳乃あら名
はよあり守兵柳の法よあり
ありとつとねよまき極極
名不よ唯一と極極よ二句
乃ハハ外よ柳柳或ハ
揚柳欽名柳下魚柳當
柳又或ハ柳橋柳々浦柳乃
あるとのるよ一ありハ
乃柳と名ふと皆難と極極よ
わら次地ハ内柳乃あら名
はよあり守兵柳の法よあり
ありとつとねよまき極極

あぬはく人ふあつては
まじりしは流しよと海にき道
理これらに次但も座乃家道
以才あつてく一も世乃詞よ
相を御よ座もくま一又柳
髪とくま一も種物しき
柳田乃田く人座うくく
も一揚枝末の菌くもあ
髪も柳乃座よ付句計と
髪く種物よまもくもあ
次はは柳種くく句とあも
見くわはつるえ付くくま
とくくも座も一不守株柳
よあつと結くくもまも柳りり
し祝秋さのあゑのらまはら
く

藪乃多くさあつとくくま
同く座もつる物く座内よ菌

く一あつとくくまあつと
ま藪あつひのあつとくくま
乃一信余もあつとくくま
世く一竹束と藪くくま
誤さつあつとくくまあつと
くあつとくくまあつと
も付あ道理あつとくくま
同く成魚くれがくくま
付あつとくくまあつとくくま
あつとくくまあつとくくま
人あつとくくまあつとくくま
万く後あつとくくまあつとくくま
まく連歌く一座一付くくま

離りの教を教らるるに教
へ向ふあらん教力教を
乃内今一句まへに二三句
教をいふん教風を云業権
乃美あらんも同あ

第一 年乃夫連ふ二われ
し離りの夫をさき夫立

夫立を夫夫皆るとの教乃
離云今一行とくあをこ

山城乃この山と云河乃山に

乃と今一あまを離りの行

と久くも山流るる山を
今一もあるるわ存成か

と云句あらんを山乃山
山と今一あまを離りの行

山乃と今一あまを離りの行

山乃と今一あまを離りの行

山乃と今一あまを離りの行

山乃と今一あまを離りの行

山乃と今一あまを離りの行

山乃と今一あまを離りの行

山乃と今一あまを離りの行

山乃と今一あまを離りの行

向はまの山脈もさういふ
まの山脈もさういふ
加しといふはさういふ
く浦人も水邊よあつた
くせし用はさういふ
なるんを正理をさういふ
乞ひもぬさういふ
嶽山脈もさういふ
河もぬかよさういふ
山脈もさういふ
里もさういふ
とさういふ
類もさういふ
ぬおさういふ
仙人もさういふ
細もさういふ
さういふ

山

曉乃やの事し

ふまにさういふ
山人と人さういふ
せりもさういふ
乃さういふ
の歌もさういふ
屋もさういふ
かうもさういふ
糸のさういふ
とさういふ
結いもさういふ
惟もさういふ
不審もさういふ

くわくつ 終りくわくつ 乃白
あまねかしくも成るしと
尸體ゆき終りし山つら
山嶽も嶺もらるる山乃
うけらるるし 極地成る
新ふおらあしき山あ
山嶽うら成るる山嶽
山嶽よあらし終りし山つ
も山嶽よのうけらるるし

山と山

之のまゝ 山嶽とらる
を極よあらし

山乃

山嶽一のあらし山乃
よのうけらるる

山乃

極地よあらし
極地は山乃

山と山乃

山乃のあらし

山乃のあらしとあらし山乃のあらし
村もあらし富士山乃
ひえあらし山乃
おもひあらし山乃
らるる山乃
と山乃よあらし山乃
里もあらし山乃
よあらし

山乃

山乃のあらし

山乃

山乃のあらし

山乃

山乃のあらし

とまひしちてまゝに合はるる
あまの月のからむいふのら
わがまゝの屋にこそあまの物
るくまゝのらむらむも回
まよひのまゝにまゝにわらむ
ゆらゆらとまゝにまゝに
い問よま乃下くまゝにま
いま乃下くまゝにまゝに
し書らむまゝにまゝに
あへ

泳生ふ 夜ら〜まゝにまゝに
回まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝに

屋よ山 各まゝにまゝに

わんまゝ ね合まゝにまゝに
数のわんまゝにまゝに
〜海らむまゝにまゝに

屋ま野 山と屋とまゝに
屋ま東まゝにまゝに

真梁まゝにまゝに

海

ねまゝ ぬ白まゝにまゝに
〜ま乃まゝにまゝに

あつらふあつらふし松乃乃乃
二乃乃乃

松乃乃乃 松乃乃乃
二乃乃乃の文字不介

ても二あまのの文字を
あまのの二不可有連

くのあまの松乃乃乃乃
と松乃乃乃の文字を

松乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

松乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

二乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

松乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

松乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

松乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

松乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

松乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

松乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

松乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

松乃乃乃乃乃乃乃乃乃
松乃乃乃乃乃乃乃乃乃

縁もふもまともあれは道理
あつて一寸もあつては縁の
及ぶも悔しくありとらふと
云へあつては縁乃れおとし
とらふも一は縁乃れおとし
不可行也

松乃心 百年一は縁乃れ
縁乃れ心 縁乃れ心

正統よいあつて

松乃煙 縁乃れ心

松乃心 縁乃れ心

松乃心 縁乃れ心

松乃心 縁乃れ心

松乃心 縁乃れ心

松乃心 縁乃れ心

松乃心 縁乃れ心

松乃心 縁乃れ心

しりくつゝの極物なりとの
まはるき名木の意をまね
つ傍乃敷心と非極物正月の
松籟（松の音）人物（人物）二句人志名よ
まね入るものよあゝん衣巻
乃紋乃ま竹も冷よまねも
何お音の名乃松指も何お
正月の月まを根をうゝゝゝ
前の庭うぬ物ならんま
かの極物ならん乃日れま
と同一

松ヤニ膠

極物よあゝん松うま
う人物ならん同一やあ
かさとの不同あ音ま膠
まのまありあゝんもの

奥しりくつゝの極物よあゝん
松乃松もまのま葉も極
物とあゝん松うゝゝも何お
なり一統よあゝん極物よあ
あゝん松もまのりゝあゝん
葉とまあゝん松葉とま
あゝん松葉とまゝもま葉
るれ松とまあゝん松まあゝん
てま松もあゝん極物よ
る松と松もあゝん巨細あま
あゝん松乃まあゝん通次ま
あゝん松しりくつゝまあゝん
乃名と極物よあゝん松あ
ねま松乃まあゝん刊し

して菓のふを仔りのるれども
根むはくろ物るれし種物とし

雜 雜ハニ 方カ 方カ 所ヲ の 雜ハニ ヤウキヨリ

カシニシロク 二 雜ハニ の ヒニシハハカ

約

シヨウシヨウ 二 雜ハニ の ヒニシハハカ

るり種ハニ 土カ 土カ 風ハ 一のひうま
てとと白の目カ 約ハニ 乃カ 字ハ 又
いすすち約ハニ 意ハ のひいしん
もあらんく 連ハニ は約ハニ ちん字
いし種ハニ も約ハニ 意ハ 乃カ 一あ
二乃ハニ 亦ハ 今ハ 一あらんちん字
せりひさういしそれあらんちん
種ハニ 海ハ 起ハ ぶちしごこれぬの
あぬ乃ハニ 意ハ はひさぬらんちんの
不可ハニ 制ハ

練

練ハニ 種ハニ 小ハ 土カ 土カ 靴ハ 一もるあ
字ハニ 小ハ 土カ 土カ 二句ハ 種ハニ し馬ハ 井ハ 字ハ

一 連ハニ 小ハ 面ハ ちと馬ハ 一 離ハ 一
セのりり

枕

枕ハニ 小ハ 白ハ 去ハ の 一 青ハ 一 枕ハ 者ハ

名ハニ 一のあわりあうあくといし
ひくあは枕ハニ 者ハ と又ハ 又ハ 又ハ 又ハ
委ハニ し種ハニ 長ハ け時ハ ち種ハニ ちん字ハ
と枕ハニ の字ハ 一ハ離ハ 一あはくし

精

精ハニ 小ハ 白ハ の 一 土カ 土カ 不ハ 種ハニ 一 字ハ 本ハ 種ハ

白ハニ 可ハ 種ハニ 一 長ハ 本ハ の 一 字ハ 本ハ の 一 字ハ
種ハニ 一 字ハ 本ハ の 一 字ハ 本ハ の 一 字ハ
種ハニ 一 字ハ 本ハ の 一 字ハ 本ハ の 一 字ハ
種ハニ 一 字ハ 本ハ の 一 字ハ 本ハ の 一 字ハ

七十五

又は説もあつゝと結を乃事
とらふにあり無業と様し
あらはらふと丸まふとつわ
終るれとまふと又と終る
物とまふと終る
めら終る別と終る
のまふと終る
成末と終る
早と成と終る
終らと終る
早に本乃終る
よと終る
一と終る
及ぶと終る
ゆは尚終る
終る
時と本の終る
終る
めら終る
ま何と終る
と終る
もらと終る
る

鞠乃事は 庭乃事
一乃事

或はまの連は庭
鞠乃事
誰よの今一あり
あつと極
と庭乃事
おも

杉葉よめとめくも又高阿瓦
 妻あつとまふ家の場乃字
 乃心あつとわ新式よる
 よ我あつと離よのまりも
 ろいほ屋のふもい
 屋と場乃場もつふのま
 西よつとつとつと

の志小戸

二句まことそ代面と

始とささせり物をま
 新式をとりとまゆりけの
 ろつとつと道屋をふも
 ろあつとよつとつとつと
 去場も離よのふ可月番
 こと又交乃つとつとつと

美彦

美彦は種花の
 刈と交と或と編と

子彦或ハ彦物あつとつと
 おも種花おもあつと

眉乃

連懐とまに
 と流物よあつと

眉つとつとつとつとつと
 一離よつとつとつとつと
 山眉柳の眉整乃眉を
 ついの眉と物とつとつと
 地つと乃乃つとつとつと
 眉地あつとつとつとつと
 可つと眉間もつと乃内を
 眉つとつとつとつとつと
 外眉と曲とつとつとつと

まじい後海らじ 海

海らじ 海

海らじ 海

海らじ 海

わらじ 海

松尾 海

今日

今日 二階よりあ九日と翌

今日 昨日の二句

今日 今の字

今日 今の字

今日 今の字

今日 今の字

燈よもつ火端屋く炭や
 ろあは梅さあさもははく
 ろく不討回さくはかり
 紫くははもは物されは
 付くもくもくははははは
 お乃燈よの火乃くはははは
 くはははははははははは
 眉目な乃くはははははは
 乃くはははははははははは
 おぢくははははははははは
 物さはははははははははは
 あくはははははははははは
 もははははははははははは
 是ははははははははははは
 たりもなきこの燈さり又漢
 乃くはははははははははは
 早くはははははははははは
 俵年物よるわく雲あよこ
 句さるれはははははははは
 乃くはははははははははは
 俵年物よ二句さるわの油燈の
 墨俵年物よ付くもくもく
 ふくはははははははははは
 甲あんとくははははははは
 物よ二句俵年くははははは
 甲くはははははははははは
 乃くはははははははははは
 毛とくははははははははは
 歎くくははははははははは
 歎くくははははははははは
 歎くくははははははははは

ななかり

わんわんわんわん
わんわんわんわん

二つあつた

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

わんわん
わんわんわんわんわんわん

まきしつゝぬらふ紙を能く
 せし居るやうに書し數十回
 乃誤を尋とてぬらふやうの
 紙ののりももとの紙に後よ
 りりしもわり二三百年
 の人達の紙をぬらふ紙
 られぬぬ百年一千年に
 乃古人の紙ぬらふやう
 ぬらふ紙をぬらふ紙か
 らぬ人々をぬらふ紙か
 らぬ紙ぬらふ紙ぬらふ紙
 唐乃儒書の古紙ぬらふ
 紙

何れと連はれぬとてぬらふ紙
 一の向とぬらふ紙

下知乃詞 二句まて

ぬ

只ちぬらふ紙
 おあらぬらふ紙

まぬらふ紙ぬらふ紙ぬらふ紙
 とつゝぬらふ紙ぬらふ紙
 ぬらふ紙ぬらふ紙ぬらふ紙
 ぬらふ紙ぬらふ紙ぬらふ紙
 ぬらふ紙ぬらふ紙ぬらふ紙
 ぬらふ紙ぬらふ紙ぬらふ紙
 ぬらふ紙ぬらふ紙ぬらふ紙
 ぬらふ紙ぬらふ紙ぬらふ紙
 ぬらふ紙ぬらふ紙ぬらふ紙

名取乃ちりてさくゆり来邦
あきなりとてきく様乃ちりて
よびる面とてゆりゆりきりて
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
會乃ちりてさくゆり来邦
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

今一わりのあき乃ちりてさく
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

よの二句く青よの依句并一切
も為但母らあしむしの類
よのじう一上句ゆらり年
とあつ月をゆらりかきいひ
字制され依句并二句並
片もよまあつい面八句并
也よの離もまじ但後
あついんやあつい

友

只一友京一書よとく
一但まよとく又可也

事よ書よやとく新武
加よ連し地乃まのあつ
てま乃友し友京氏とま
二句の物守離よの地乃
乃書ゆらり書友信が友
乃書ゆらり書友信が友
乃書ゆらり書友信が友

又とくとく書よ一書三句の
同わりの友人細く友言相を
友は友とくの人中書ハ友
京氏乃内よ加て友京氏も
友京氏の中もわ友言て
三つとも同わかり友京氏
お湯と書よ書よ一書三句の
物よは書ゆらり友人京氏
友京氏乃親く友京氏と書
小まよ月たるる海まを連
誰よの地あついハ書よに
又物よとまよとくとく物わりの
乃字よをくけた友よ面と書い
て物物よのあつい
しあつい友三のあつい

又

意一様又一文字よき

玉子三句乃内より辨

よの意あくも様ゆきまふ

又字ゆくも三乃亦今

所んと致は徳くありし皆

ねとて致はく新式は又

とあらぬ人しりし文と

まよふ又乃きくしりし

事一玉子と文の意は成

人おもむくしりし文は

かめは徳はくはしりし

乃事にあつれは又きく

意乃又一あくも意の玉

子一様乃又一さくも様

乃玉子あつるしりし文

の意は徳はくはしりし

可きかたわく曲又と

云々者又字又文其亦

文又起結又新又 淵

文又文書又巻又車

集名々の新又又乃

あつる人なふ又文

又乃教とあつる

あつる人の名は茶

氣はもひまはく

公又下 依り神人

文又下 依り神人

乃名は非人倫

乃名は非人倫

乃名は非人倫

とるべきの家と非人傳と
ゆきせし波泳喝含みは如來
場自野伏山伏入道おま
もつ波つちん門さぬは津輪
おまぬは傳乃字汁と人傳
よせぬは新式人傳よわぬ傳
とわせらるは傳よわす又
除若者賢親言辨妙乃教を
尸に此世傳を二實と号す
い傳乃事之傳乃字付くも
亦傳教傳事やり傳實傳乃
類らる人傳さる傳正傳類
とくは友若さるれし人傳り
わく次世直上聲と始めた八
祖と外伝家の開山宗師山
よわすはたは師号 其師号
善哉善哉と云ふなりし傳り
おまらる不可に入傳と新式
乃がらとと知りたるしとい
若しとて傳さるは大師号圓
傳号とてしつ傳とて人傳
よきしひまらるるはしつ傳
乃がらととて人傳よわらる
貴相らと世を現とて世傳
半田雲傳さるは師号とて
くす又年号人傳若らる
乃がら乃字よは世を現と
もくらるしつ傳とての文と
まらるらるは世を現とて
とて傳とて人傳乃字よわらる
乃字よ不可得とて別の義
傳を世の今とてしつ傳

魚孫乃久昔の初水一たの
わとも乃初は皆孫夫の類
不可付魚孫乃久魚孫乃久
物振り流るる面と可し魚に
久書乃久よ魚孫乃久子孫孫子
くくくくくくくくくくくく
士傳人古孫夫地面と可し
魚孫の久書乃久よ魚孫乃久
もきくくくくくくくくく
乃初も乃初も乃初も乃初も
ひ久書乃久乃初乃初乃初
わりを初く初初初初初初
各別のもく初初初初初初
初初初初初初初初初初初
久書乃久乃初乃初乃初乃初
乃初乃初乃初乃初乃初乃初
可く初初初初初初初初初
只初初初初初初初初初初
初初初初初初初初初初初
乃久書初初初初初初初初
く初初初初初初初初初初
其産とさかん人初初初初
も初初初初初初初初初初
久書乃初初初初初初初初
久乃初初初初初初初初初
よ一産初初初初初初初初
久書乃初初初初初初初初
乃久書初初初初初初初初
久書乃初初初初初初初初
乃初初初初初初初初初初
ても久書乃初初初初初初

世に秋を候ふ乃て雪の七白も
今一雪のふりたる月のお
まはるるもさしきりて
えらぐくもなほさしきりて
秋のころ又も雪のふりたる
とさしきりてさしきりて
あまの雪のふりたる
あまの雪

筆

只一筆のふりたる
筆よよもむらさきと久
今一白もさしきりて

筆乃の

筆乃の
筆よの雪のふりたる
あまの雪のふりたる
筆よの雪のふりたる

筆よの雪のふりたる
筆よの雪のふりたる
筆よの雪のふりたる
筆よの雪のふりたる
筆よの雪のふりたる

梅

梅よの雪のふりたる
梅よの雪のふりたる
梅よの雪のふりたる
梅よの雪のふりたる
梅よの雪のふりたる

波乃の

波乃の
波乃の雪のふりたる
波乃の雪のふりたる

同云一産田の物といふはこ
りありて又向まことまじい傳よ
るせりちちあむ昔もあまの
つゆちあまのつゆちあむねも
傳はしよこい人よ然も此輕重
とあまのつゆちあまのつゆち
成神のまじりもこは同傳物
かこくしむとゆふるまじこ

富士と計も
山敷と富士川
山敷とあま

ゆりこつあ
かむあまあま
あまこもちりあま

左云傳牡丹乃名こまよのまの
初るれあまの系物あむり
連排よいあまよあまの初あま

牡丹一初若よあまあま

向こ一初よあまあまあま
ゆあまあまあまあまあま

深の深あ
まあまあまあまあま

向よもあまあまあまあま
乃字あまあまあまあま
極物あまあまあまあま

船
ハ船よあまあまあまあま
川あまあまあまあまあま

るれと船あまあまあまあま
ふすあまの初あまあまあま
あまも船よあまあまあまあま
船あまあまあまあまあま

之海は人の後し母の爲なるを
川よもありるものなりも性来す
もるれを務まわく次なき物不
よ後し母をわくとさるる
新式を足そこるひらと見たり
新式よ云海流の海母の務は
不の務之云々苦んけ小船を
小舟おりり母たきく小船
はが母も不並船酒舟馬舟
不の女に在母物務とあるせり
あまつし高貴の人なり福も
云成會しきうよらゆ
い業平さの東下も務り
あらしる人なり流人志母
をなすへゆくされ海流の

新式船の天子の務
務よあつて次は在母の事人
乃あつて貴人も海と云海
世はへし務なる物池乃舟
物舟たつけの母の事
いさり母来母の事母舟
乃類皆務よあつて水船舟
の事あつて海よもあつて
ちかをたつてもさすはさく
明なるくも務なる物
しむ務よつてなる事
細務よつて母をたつて
物と云るよ母よ揮つて
海との母よも物なる物
事と云るよ母よつて
さかあつて事と云る

俾めうらむりやうけんが
こうしつ海と乃船改めあ
ともうやうんいり連禱よ
ひねめくすい舟俾めく
あくら猪よまへく舟あ
とわくも猪よまへくあ
百人のうくくあくま
あくの猪合ち只を産の家
道よまへく舟あ

船乃字

夫船舟と阿ああ
三浦文のあすの船
多色舟畧山は舟あ舟乃字
よまへくまうん

冬乃月

まを冬一休く連よ
二句乃物されし誰
わくすい海よ三日月あ
加きし句あつとまゆし冬乃
月といひまあさのつ句雲あ落
葉あは結へ入る月三日月
ま明らうあいあま乃月
わとくく只二句あつとあ
冬月ちとまよまくとひ二句
乃物あわ

冬と冬

冬と冬

挿条

二乃物されし誰よ
あう一は若ああ
あつとあつと誰一はあ
あ

乃字

新らに乃と通ずる

乃字と乃字と二連は

乃字と乃字と二連は

乃字と乃字と二連は

乃字と乃字と二連は

乃字と乃字と二連は

乃字と乃字と二連は

乃字と乃字と二連は

乃字と乃字と二連は

乃字と乃字と二連は

乃字と乃字と二連は

乃字と乃字と二連は

乃字

十月朔

佛名

十二月十九日

乃

乃字と乃字と二連は

右へ年ふち物されしうらな
 乃本指乃森と二句をへん
 申し本指よ本乃字二句を
 しよのるもけりよあ
 つひくは回あこもへん指乃
 字制よあまをしけり
 壇しんく風舞よ二句ま
 空言後よ本よも指しも
 と帰とえいそ湯次本の
 うへれと壇とちよ
 離よ本指よ本のうらな
 古本あへんを壇し指し
 字計よ二句をしされも
 の乃うあへんれり
 二句を離りし阿を離乃字
 物乃句の中あはるる
 吹ゆへんわ

あ

あひくはまのうら
 又二あり離よ
 つひくはまのうら
 意慕と替よ今二句を
 意乃句をそいあ
 連よも今二句を
 と二ありあを
 くと意乃句を
 可もそい意乃字
 回句わはれと
 意乃句を
 申しそい意乃字
 といへん
 問るわ

愚山

愚山乃... 橋...

新式... 愚乃山... 乃句... 宗道... 山教...

愚乃句

三句

指

只一... 乃... 九月... 末乃... 但末乃... 乃... 三...

末乃...

指... 乃...

七句... 乃...

わきつた新式よふ別とくへ
地乃高よあ方よ可ゆらう
ふ船るわ昔等も本乃葉の
着乃毎よあころしころり
あうれゆまき長古さゆあ
海乃ゆらと本乃葉うら中よ
もあ地さともあきく免角
あまは船地乃個よつらと
あうら海わもあらこのの書
おわら文の句されたる物
よさうらあゆ新式
短とらうら後のも地か
皆あまゆとつありまあ
新式乃さ名とあもあゆ
一と代乃さこのあさ
船のあま入るゆり
撰るゆ船よ新式を可
月

本乃葉の歌
地乃本も歌
おもたよ三句

心乃花
まるり心花とわ
え地よ二句をわ

詞の可
地乃地まよ
海と正あよあ

同えん乃花詞のむ何乃
しらあわわくゆわう
あうささあわうされ
むら正むりあうなり
乃むらあゆ新式
のまよまゆわふり

てふのふ朝をいしむむよ
かきしきふしきき物と相の
むまふさし相とくくまふ
今来物うまよ月く一ふ
よふくめあしきありき文
一ふよハまよわく次とくけ
りお後お後とりのけ成り
まよのく次とわきし地の
穿殺全よ不可及

九重

あめくさくさくさ
よわく次若依よわ

相と物乃月若依と連よ物
よ物と物し物りハ面と物
なり九重あめくさくさ
小一ありあめ若依人九重
九重のたくと一あり物り
九重のたくと一ありこの物
和よ物くく二つと八しまふ
ま乃月あめくさくさ
まよりさ物しきまふハ之句
まし文字ハ同ハれたまよ
おきしきまふハ付くまふ
一ありすかあめくさくさ
面と物しきまふハ付り
と云物付しきまふハ付り
あとかさあめくさくさ
まよよしむ物と之句まふ
てしらしきまふよしむ物
もあめくさくさまふハ付り
おまつて物らあめくさくさ
物一ハのまふハ付り
とひあよわめくさくさ

勢よつひく今一向書よあは
 めりひはくくうすひの流
 きもかあらよ一向あるなり
 うとくひもあつひもひと
 候よ一向収宝よ面と候と
 収宝と甲申収の布と新
 式よ片くもあつふを代連あよ
 収よ新ときく候と一向無理
 るりあつても収宝のおもあつ
 舎一向収一産三向の物よ候と
 さらふよ一向候よ一向すひ
 るあつひ書よ収宝面と候と
 収よ一向収宝七向き収のひ
 候と一向る候と皆まるとり
 収収非云 爲収爲るりり収
 収もくくくくしむるるりり

収糖収被糖収んあく

難し地位を体可あそ収
 入向乃門之収後ま収宝
 収し収魚まそ爲収とあひ
 ちみそ候じりあつひ難く
 収乃あつ候銀も難し皆
 入向乃門之収収宝収後同
 難なるわおあらよまへ一収
 集らすもひあつひあひひと
 心む難まそ候とあつひ
 収よ一向一向と候しひ同収
 宝収後ちるまよさつひ
 小一向収よせ向し収宝収
 乃あつ収よ一向収よれと
 ちる一収水乃あつちるま

ゆりゆるわし極め種まきと
定句一雨冷あかりとつひ
てもひとつひくも皆形を
久くもとく一雁一ひりくと
後よ懐ぬ汁と二句表よ
用くつと又句と知會ひは
ひはくしとるあすよ一ぬと
ひ冬あくともまゆくと只二句
もつひはくく一すすひ

ぬ魚ふの間只一月のぬ圃の
ぬるよのぬきよあつとつ
ぬ只一ももあくと霜雪露
滴風ぬ露乃ぬふんぬ是
乃あつとつぬふ一皆冬と
ぬきとよあつとつぬ雪露
ありあつとつぬふんぬ

雪又さふのさあつとつ
乃字とるれと冬よあつと
ぬ句種冬よ成可ぬ雪乃
ぬ乃類あくと利よとく
と只四乃あよ灘よひひり
乃字と表ふ用くとつと又句
ぬ雪ぬ雪とつひあつとつ
かりつとつ句もつとつぬよ
七句去ひよのぬと種くひの
よ七句成つとつぬとつと
ぬよ二句ひよのぬ 紅蓮
大らまらん乃ぬとつとつ地獄の
名くももあ乃ぬとつとつぬ
かり種く

心乃松 心乃松 心乃松

心乃松といふ乃がもろくもろくもろく

さかぬらもろくもろくもろくもろく

心もあつ心乃松を並成す

かろ又教家と云ふ心はろくも

しりて好及乃もろくもろくもろく

あお新しそろくもろくもろくもろく

可伝為社

あつとわさ 酒よりよりより

さくもろくもろくもろくもろく

わくやろくもろくもろくもろく

わくもろくもろくもろくもろく

婦月也後とくらもろくもろく

字よりよりよりより

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

心乃松といふ心乃松

のびねんそくもくひし言乃
 字よ二句備う曲事へれ
 字かりあへあひ依為神
 言乃字かりあひ依為神
 くちもあひししよ新
 といしよあひあひたそ
 あぢい言乃字かりあひ
 依為神事の字よまま
 ありんしんときしあひ
 言の字よあひはくし
 依為神事の字よまま
 かりあひし言乃字かり
 あひ事の字よあひの細
 候乃ま候し終り候ま
 候
 候よとくしん事およ
 候しひしと候りのひめ
 知乃しはまふとま漸
 三句はしと時といし
 句あしりし二句まは
 物候もあはとまのあ
 荒の時時あはとまの
 時といし新式しもの
 を依はんかひの神
 見しりり回しあひ
 候乃ま候し神候
 候しひしひの
 おあしひあひ各別の
 と二句まおんしは
 かり地乃とん時
 まあしひ

大日本

此よ

日未 奉 来 子 未 の 乃
二句と一をさふもわり

あつふりハ六乃よりハ奥の
字さの流ありと 結露と

けしとさおも流二句去りて

乃と又流丸流しとく 久の字

わらふ事と古人中二句去り

定し事ハ流らわりたる人

も村家草のじしとあつと云

とらとじしと云ハんえわり

村家草のじしとくハ草一結

よ流とくく くらじしと云ハ

短くハまも藤もひしと云ハ

打変く草のさけりさるお

と云よしり 藤唐乃又字よ

も 藤乃字別ハあつと云ハ

ちあふ乃 抽るれれ二句あ

定しとより 約日と云草ハ 旭

乃字別ハあつと云ハ 乃字り

も 日のさまよもわり屋よ

きしと云ハ二句去りハせあ

古人ハ正字と云ハぬらち

わしと云ハ吟味しと云ハ 約

日らわしと云ハ目の目ハいお

らぬ流を流しと云ハくハ年

あり日しりのありも 別中ハ

と云ハあられと 新式ハの

ぬとハあまもあつと云ハも

しと云ハしと云ハくハ一
世びとのん種をせんせん人
らしと云ハくハくハくハ
らしと云ハくハくハくハ

心乃月 難く非難ふを憂ふ
謝す一月乃字す

みわたりしをてし西乃月
とてしをてしをてしをてし

心乃言 非難分憂うしを
年す可親乃字を

あふまをりり又意乃あり
もわりとてしをてしをてし

久し連懐しをてしをてし
これとてしをてしをてし

心乃友 依り非人偏しを
交面交しをてしをてし

わり面交しをてしをてし
りて人らつてしをてしをてし

あれし人偏しをてしをてし
あしい事とてしをてしをてし

連次非人偏しをてしをてし
りて人らつてしをてしをてし

なるれあるをてしをてし
よとてしをてしをてしをてし

急事 非極物 其急乃事と
但ちけりてしをてしをてし

あしとてしをてしをてし
極物よ二句まへ

衣の衣 みの衣

衣の衣の衣の衣の衣の衣

衣の衣の衣の衣の衣の衣

しるるをいふるはつゝいふもあとの
まよふをいふに衣取と

昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

昔の 昔の 昔の
昔の 昔の 昔の

と表と為人一魂魄と教
つひくも回方靈乃字も回方
他靈山よりよハぬもく
〜す

ひぬ 吾等こころの地なり
靈乃よありす

鈞鑑原よ 小乃字不爲小の
字と事ありあり

均産と事しはらわと事
字よりハ之向去今一はらこ
ら字より對しよと事し

可はらわらとはらと又字
〜はらこ

紙語 名前よ二句始るり
悲海と久し三句去

悲語よ 誰いとも折紙と始るり
極初ありあり

慈草 三葉と添は極初よ二句
〜あり

去年 誰よと事し
〜あり

福ん去歲 あん福ん當年
新年改年と事し 慈乃り
〜あり

今よ と目今と事し
よ不爲

子 誰よハハありあり
去こ子と事し

人備あり親と子と
述懐ありそれも親親
乃ありと事し

句々非連懐子乃字子汁も
非連懐^{ひづ}孤玉^{こたま}子^こ卵^{たまご}竹の子
あまの文字別は一字は
あはれ子あ乃肉るわ別
乃子もあ乃肉るわ今
児とせむあ一竹の子
乃子まへに付句を始
今も卵^{たまご}子^こあまの汁
も一子汁子にお
付くも一子汁子
金子も一子汁子
とあまの卵^{たまご}子
子乃年子乃日る一子
と一子あも一子
と一子一子

小智^ち物^{ぶつ}

物^{ぶつ}物^{ぶつ}物^{ぶつ}物^{ぶつ}
物^{ぶつ}物^{ぶつ}物^{ぶつ}物^{ぶつ}

も一子一子
ハ物^{ぶつ}物^{ぶつ}物^{ぶつ}物^{ぶつ}
とも一子一子
一子一子
物^{ぶつ}物^{ぶつ}

あか^{あか}一^一子^こえ

一子一子
一子一子

しそ^{しそ}と^と海^{うみ}り

しそと海り
しそと海り

一子一子
一子一子

小^こ松^{まつ}子^こあ

小松子あ
小松子あ

あら 多風と云ふ

本乃下宮 多し新が

小鳥後子 梅はなのうらひの新はなが

梅はなのうらひの新はなが

江

江 連よ二條よとては内一を
江 名不もふ人

えびさめ 梅はなのうらひの新はなが

葡萄と云ふはいろと云ふ

えあ 梅はなのうらひの新はなが

共一なり 離る

梅色と云ふと云ふ乃句よ

今一ありえあ

のゆりし慈るぬ海乃字の

えあよと云ふと云ふ乃句よ

乃乃ぬまえん人名をねれ

海と云ふ時と云ふとき

ぬるわたりと云ふとき

えいと 一人梅の

梅と云ふと云ふ

續くとと一東夷 小秋南

宮西我ひ田乃田一と云ふ

の内よと南宮と云ふ乃名

おるわくと宮の字と云ふ

と云ふ人梅と云ふ

えあ 只一人梅と云ふ

一と云ふを離る

二ありんふゑあつりり離りも
 こゝへいかに東夷寺可
 めたまあふいとあつりも
 ともやあふあふあふあふあ
 七月の早やあつりあつりあ
 らあひいとあつりあつりあ

傳

寺

尺高に非居前連よ名
 一と具二あれい離りち
 ち一居分よ一とあふよ名前
 成光發よのいこち号はじ
 一と三この習みのちも尺高
 一とあつり被る寺三付んま
 居分よ二とちこの場寺乃
 相傳ふ被非居前や離り
 月持とんちあつりよあつり物
 よんちあつりもよ一とあつり物
 こゝあつりあつり寺乃
 世俗をよのまて淨い道理
 と夫よあつりあつり居分乃
 何よよも寺乃あつりあつり
 も非居前二とあつりあつり
 あがあつりあつりあつり乃
 かきあつりあつりあつりあつり
 と右人あつりあつりあつりあ
 宮ちも人あつりあつりあつり
 居分よあつりあつりあつりあ
 んち人あつりあつりあつりあ
 かつりあつりあつりあつりあ
 びあつりあつりあつりあつり
 さあつりあつりあつりあつり

山は今もわらわらと白くはいては海り
のど白と木村又かたのど白
は終乃東の明ら河ちまうく
月をさしつゝとまやよ洞し金
ふゆふゆと揺乃ねおよてま
ととへうと次とまゑとての字
ふりさうしすと又まお又ま
と終字は皆回おは又てまよ
りさうとまてまがてまて
つそまてまの一字あ
洞ちてと海りよ不揺それ
もあつと揺とまてて又ま
とつらつらと揺とまてま
とてとと洞をさつとぬゆ
おとりのま揺とまてと丸
とら中のまらとまてへ
あつとまらとまらとま
あつとまらとまらとま
事わらとまらとまらと

物庭家物之親物也

物ねお物ね物也

あつとまらとまらとまらと
つとつと物ね物ねとまらと
とまらとまらとまらと
百と大とまらとまらと
とまらとまらと

物乃ま

あつとまらとまらとまらと

妻の中へはなれぬ
又よしのちの御心
と神の御心
事
はわく蕨ゆるも
かむよは神
袂に二白姑

よ
は花と陣は
は二白姑
は二白姑
は二白姑

洞のく
るれ
ねとと

洞あ
ちるの
とと
約は二
それ
よは
あは

と
あは
あは
あは
あは

无疑卷



